



学校だより



凜として挑む

～未来永笑をめざし「自らを律する力」と「自ら学ぶ力」を
共に育む 山階南～

令和7年2月吉日
京都市立山階南小学校 校長 鈴木 洋一
Tel:592-2849 Fax:592-2851
E-mail:sankaiminami-s@edu.city.kyoto.jp

保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと思います。平素は本校教育にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、12月に行いました「子どもたちの生活をよりよいものにするための自己評価」を通して、「保護者」「児童」「教職員」それぞれの立場で自分自身を振り返る契機とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

昨年度に引き続き、学校教育目標を「凜として 挑む」の後に続く副題を～未来永笑をめざし 「自らを律する力」と「自ら学ぶ力」を共に育む 山階南～にしております。今年度大切にしたい「自らを律する力」「自ら学ぶ力」という視点、また「めざす子ども像」の4つの視点で分析・考察しました。その結果をもとに現状を把握し、今後の学校の取組に生かしてまいります。

【アンケート全項目結果】

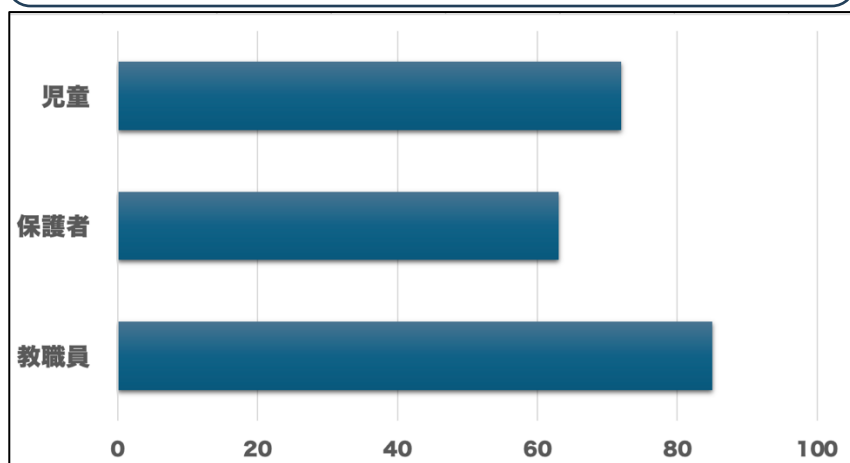
	教職員	保護者	子ども
1	児童に、自ら進んで挨拶をしている。	お子さんに 自ら進んで挨拶をしている。	じぶんから すずんで あいさつ を している。
2	児童のよさを積極的に見つけ、認めたり、ほめたりしている。	お子さんのよさを認めたり、ほめたりするようにしている。	じぶんの よいところが いえる。
3	児童に、忘れ物なく学習の準備ができるように働きかけている。	お子さんに、忘れ物なく学習の準備ができるように働きかけている。	わすれものを しないように、がくしゅうのじゅんぴを じぶんで している。
4	児童が係や当番の仕事を、自分でできるように働きかけている。	お子さんが、掃除や後片付けが自分でできるように働きかけている。	かかりやとうばんの しごとを じぶんから することができている。
5	学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている。	お子さんに、学校での出来事や学習の様子を聞いている。	がっこうでの できごとを いえのひとに はなしている。
6	児童がよく分かるように、授業を工夫している。	お子さんは、授業が分かったと言っている。	じゅぎょうが よくわかる。
7	児童が人の話を、最後までしっかり聞くよう働きかけている。	お子さんに、人の話をしっかり聞くよう働きかけている。	ひとのはなしを さいごまで しっかり きいている。
8	児童に手伝ってもらったときは、「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。	お子さんや、家族に対して「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。	かんしゃの きもちとして、「ありがとう」や「ありがとうございます」をつたえている。
9	児童の思いや困りを聴いたり、相談にのったりするようにしている。	お子さんの 思いや困りを聞いたり、先生に相談するようにしている。	こまったことがあったら いえのひとや せんせいに はなしたり、そうだんしたりしている。
10	児童が自他を大切にできる学級づくりに取り組んでいる。	お子さんに、自分や友達を大切にするように働きかけている。	じぶんや ともだちを たいせつにしている。
11	児童が授業中、進んで学習するよう働きかけている。	お子さんに、授業中、進んで学習するよう励ましている。	じゅぎょうちゅうは、じぶんから すずんで、がくしゅうしている。
12	児童に、家庭学習の習慣が身に付くように働きかけている。	お子さんに、家庭学習の習慣が身に付くよう働きかけている。	かていがくしゅうに じぶんから すずんで、とりくんでいる。
13	児童に、読書の習慣が定着するように働きかけている。	お子さんに、読書の習慣が定着するように働きかけている。	がっこうや いえで ほんを よくよんでいる。
14	クラスや学年、委員会などの中で、子どもが活躍できる場や認められる場をつくらうとしている。	家の中で、お子さんの役割を決めたり、やりたいことを聞いたりする機会をもっている。	がっこうや いえで じぶんの やくわりが きまっていたり、やりたいことが あったりする。
15	学校のルールの意味がわかったり、クラスでのやくそくについて守ったりすることができるよう指導している。	家で「これだけは守ろう」「これだけは大切に」などのルールや、やくそくを一緒に考えたり、話したりしている。	みんながきもちよくすごせるように がっこうや いえでの るうを まもろうとしている。
16	学校のタブレットを活用して授業をしたり、家庭学習に活かしたりするように指導している。	学校や家庭学習でのタブレットの使い方について、話を聞いたり、相談にのったりしている。	タブレットを がっこうや いえで がくしゅうに いかすことができている。
17	学校のタブレットのルールを守ったり、家でのルールを見直したりできるように指導している。	お子さんが、学校のタブレットのルールを守ったり、家でのルールを見直したりして適切に使えるようにしている。	がっこうの たぶれっとの るうがわかって、まもったりみなおしたりしている。
18	山階南の地域の良さを学べるような教材・単元づくりをしたり、地域の話をしたりしている。	家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを話したり、ふれあったりする機会をもっている。	さんかいみなみの ちいきのことが すきである。

		後期				前期			
質問	【児童】	そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そう思わない
1	じぶんから すすんで あいさつを している。	31%	39%	25%	5%	38%	40%	19%	4%
2	じぶんの よいところが いえる。	21%	31%	35%	13%	21%	29%	39%	11%
3	わすれものを しないように、がく しゅうのじゅんびをじぶんで して いる。	43%	40%	13%	4%	47%	39%	11%	4%
4	かかりやとうばんの しごとを じ ぶんから することができている。	45%	44%	10%	1%	50%	39%	10%	2%
5	がっこうでの できごとを いえの ひとにはなしている。	36%	35%	19%	10%	41%	33%	18%	8%
6	じゅぎょうが よくわかる。	41%	44%	11%	4%	44%	43%	9%	4%
7	ひとのはなしを さいごまで しっ かり きいている。	39%	53%	7%	1%	49%	42%	7%	2%
8	かんしゃの きもちとして、「あり がとう」や「ありがとうございます 」をつたえている。	58%	36%	5%	1%	63%	30%	6%	1%
9	こまったことがあったら いえのひ とや せんせいにはなしたり、そ うだんしたりしている。	29%	37%	24%	10%	31%	42%	19%	8%
10	じぶんや ともだちを たいせつに している。	64%	33%	2%	1%	68%	28%	3%	1%
11	じゅぎょうちゅうは、じぶんからす すんで、がくしゅうしている。	32%	45%	19%	4%	37%	42%	17%	4%
12	かていがくしゅうに じぶんから すすんで、とりくんでいる。	27%	46%	21%	6%	33%	42%	19%	6%
13	がっこうや いえで ほんを よく よんでいる。	27%	30%	21%	22%	31%	28%	23%	18%
14	がっこうや いえで じぶんの や くわりが きまっていたり、やりたい ことが あったりする。	34%	45%	14%	7%	38%	42%	15%	5%
15	みんながきもちよくすごせるよう に がっこうや いえでの るうるを まもろうとしている。	39%	49%	9%	3%	45%	48%	6%	2%
16	タブレットを がっこうや いえで がくしゅうに いかすことができて いる。	39%	44%	14%	3%	47%	38%	13%	3%
17	がっこうの たぶれっとの るうる がわかって、まもったりみなおしたり している。	49%	38%	11%	2%	53%	38%	7%	2%
18	さんかいみなみの ちいきのことが すきである。	55%	32%	9%	4%	58%	32%	7%	3%

	後期				前期			
【保護者】	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない
お子さんに 自ら進んで挨拶をしている。	66%	29%	5%	0%	62%	32%	6%	0%
お子さんのよさを認めたり、ほめたりするようにしている。	52%	43%	5%	0%	56%	38%	6%	0%
お子さんに、忘れ物なく学習の準備ができるように働きかけている。	35%	55%	9%	1%	44%	45%	10%	1%
お子さんが、掃除や後片付けが自分でできるように働きかけている。	27%	61%	12%	0%	36%	51%	13%	0%
お子さんに、学校での出来事や学習の様子を聞いている。	49%	46%	5%	0%	53%	42%	5%	0%
お子さんは、授業が分かると言っている。	19%	62%	17%	2%	18%	64%	15%	3%
お子さんに、人の話をしっかり聞くよう 働きかけている。	41%	54%	5%	0%	51%	43%	6%	0%
お子さんや、家族に対して「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。	63%	36%	1%	0%	64%	33%	3%	0%
お子さんの 思いや困りを聞いたり、先生に相談するようにしている。	60%	34%	6%	0%	54%	43%	3%	0%
お子さんに、自分や友達を大切にするようにきかせている。	69%	27%	3%	1%	68%	30%	2%	0%
お子さんに、授業中、進んで学習するよう励ましている。	30%	46%	21%	3%	34%	45%	19%	2%
お子さんに、家庭学習の習慣が身に付くよう働きかけている。	30%	43%	25%	2%	40%	39%	20%	2%
お子さんに、読書の習慣が定着するように 働きかけている。	11%	22%	55%	12%	16%	27%	46%	11%
家の中で、お子さんの役割を決めたり、やりたいことを聞いたりする機会をもっている。	20%	48%	30%	2%	25%	47%	24%	4%
家で「これだけは守ろう」「これだけは大切にする」などのルールや、やくそくを一緒に考えたり、話したりしている。	37%	48%	14%	1%	39%	47%	10%	4%
学校や家庭学習でのタブレットの使い方について、話を聞いたり、相談にのったりしている。	15%	38%	37%	10%	21%	39%	29%	11%
お子さんが、学校のタブレットのルールを守ったり、家でのルールを見直したりして適切に使えるようにしている。	15%	52%	24%	9%	23%	44%	22%	11%
家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを 話したり、ふれあったりする機会をもっている。	7%	23%	55%	15%	9%	25%	50%	16%

	後期				前期			
【教職員】	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない	よく できている	大体 できている	あまり できていない	できていない
児童に、自ら進んで挨拶をしている。	46%	42%	12%	0%	44%	54%	4%	0%
児童のよさを積極的に見つけ、認めたり、ほめたりしている。	46%	54%	0%	0%	76%	24%	0%	0%
児童に、忘れ物なく学習の準備ができるように働きかけている。	30%	70%	0%	0%	14%	76%	10%	0%
児童が係や当番の仕事を、自分でできるように働きかけている。	25%	75%	0%	0%	12%	80%	8%	0%
学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている。	17%	48%	31%	4%	15%	70%	15%	0%
児童がよく分かるように、授業を工夫している。	22%	74%	4%	0%	10%	85%	5%	0%
児童が人の話を、最後まで しっかり聞くよう働きかけている。	42%	54%	4%	0%	23%	77%	0%	0%
児童に手伝ってもらったときは、「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。	92%	8%	0%	0%	72%	28%	0%	0%
児童の思いや困りを聴いたり、相談にのったりするようにしている。	48%	48%	0%	4%	26%	65%	9%	0%
児童が自他を大切にできる学級づくりに取り組んでいる。	39%	52%	4%	5%	20%	75%	5%	0%
児童が授業中、進んで学習するよう働きかけている。	30%	70%	0%	0%	15%	85%	0%	0%
児童に、家庭学習の習慣が身に付くように働きかけている。	18%	64%	18%	0%	11%	84%	5%	0%
児童に、読書の習慣が定着するように働きかけている。	14%	54%	23%	9%	16%	47%	37%	0%
クラスや学年、委員会などの中で、子どもが活躍できる場や認められる場をつくらうとしている。	35%	56%	9%	0%	19%	62%	19%	0%
学校のルールの意味がわかったり、クラスでのやくそくについて守ったりすることができるように指導している。	42%	58%	0%	0%	20%	65%	10%	5%
学校のタブレットを活用して授業をしたり、家庭学習に活かしたりするように指導している。	35%	48%	17%	0%	25%	55%	15%	5%
学校のタブレットのルールを守ったり、家でのルールを見直したりできるように指導している。	35%	56%	9%	0%	25%	55%	20%	0%
山階南の地域の良さを学べるような教材・単元づくりをしたり、地域の話をしたりしている。	18%	41%	36%	5%	50%	44%	6%	0%

自己存在感の感受



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、1・2・3・4・5

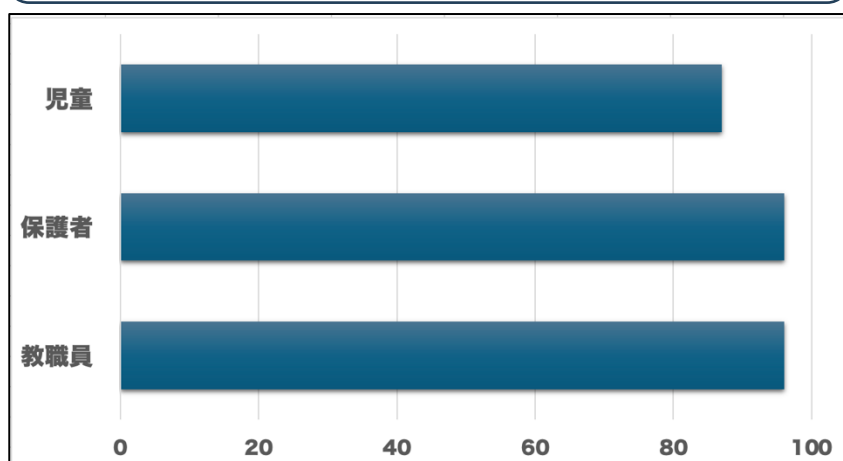
自己存在感の感受とは、「一人ひとりの児童生徒をかけがえのない存在と捉え、個性や独自性を大切にする」ことです。子どもは、あいさつや身の回りのこと、みんなのための仕事を進んでできるか、大人は、それらができるように支援しているかということです。また、自分の良さや強みがわかったり、自信をもてたりしているかということも関係します。自分の良さや強みは、自分だけでわかるものではなく、友達との学習活動の中で気づいていたり、発揮されていたりするものです。

児童への質問2「じぶんの よいところが いえる」では、前期に引き続き、肯定的な回答が微増し、50%をわずかにこえるにとどまった一方、保護者の方や教職員が、「子どものよさを認めたりほめたりしている」という回答はどちらも90%を超えました。「認めたりほめたりしていることが届いているか」という視点での子どもへの接し方が引き続き必要かもしれません。

児童への質問4「かかりやとうばんの仕事をじぶんからすることができている」では、前期に引き続き、この「自己存在感の感受」のセクションの中で児童の肯定的な割合が最も高かった結果が出ました。係や当番の仕事を自分からしようという子どもが、年間を通じてとても多いことがわかります。また、その中には全体の状況を見て、さらに自分からできることを探して動くことができる子どももいるようです。今後は、そのように、決められたことや言われたことをするだけでなく、自分で考えて動くことも増やしていきたいと考えています。

児童への質問5「学校での出来事を家の人に話している」という回答では、「子どもに学校での出来事や学習の様子を聞いている」という保護者、「学級だよりや学年だより、ホームページなどで、子どもたちの学習の様子を伝えている」という教職員に続き、「学校での出来事を家の人に話している」という子どもの肯定的な回答は71%にとどまり、3ポイント減となりました。学校では、何かあったときだけではなく、普段から何気ない会話も含めて、子どもたちの話を聞こうと考えています。「子どもは、断片的にしかうったえない」という言葉があるそうです。普段の様子や言動から子どもたちの様子を見とることを心がけておりますが、じゅうぶんではない部分もあるかと思えます。保護者の方におかれましても、お気づきのことがあれば教職員までお伝えください。

共感的な人間関係の育成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、7・8・9・10

「共感的な人間関係の育成」とは、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外に築くことです。

児童への質問7では、「ひとのはなしを さいごまで しっかりきいている」では、前期に引き続き、90%を超える子どもたちが肯定的な回答をしていました。人の話を最後まで聞くことの大切さはどの子も理解はしているようです。授業の場面などを通じてさらに聞く態度や聞く姿勢、聞き方については指導をしていきたいと考えています。

また、質問8「かんしゃのきもちとして「ありがとう」や「ありがとうございます」をつたえている」では、感謝の気持ちも伝えることができるという自覚のある児童が90%を超えました。このことについては、保護者の方も教職員も自信をもって声かけをしている結果が前期からうかがえました。言葉づかいだけでなく、相手の気持ちを尊重したような言葉がさらに増えるとよいと思います。「わかるよ」「それはたいへんだったね」「いっしょにかんがえよう」などの「共感言葉」がさらに増えるとよいなと思います。

児童への質問9「こまったことがあったら いえのひとや せんせいにはなしたり、そうだんしたりしている」では、肯定的な回答は66%にとどまり、7ポイント減となりました。この項目は、前期からこのセクションの中で最も低いポイントでした。特に、高学年になると教職員や保護者の方への相談が減る一方で、友達や先輩への相談が増えるようです。それも子どもたちの成長の一つと捉えることもできますが、「何か心配なことある?」「困っていることはないですか?」と具体的に聞いたり、寄り添ったりすることで、普段から、「相談できる」「相談しやすい」と子どもたちが思えるような信頼関係をつくるのが大切だと考えています。来年度への課題として取り組んでいきたい項目です。

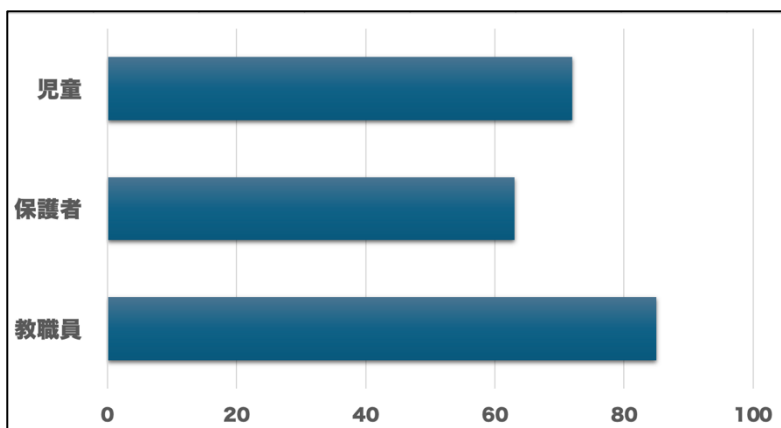
児童への質問10「じぶんやともだちとたいせつにしている」では、児童の肯定的な回答は、前期に引き続き90%を超えました。しかし、学校での言葉や行動を実際に見たり聞いたりしていると、「果たして本当に大切にできているのかな・・・」と考えられることもあります。「自分や友達を大切にしていることが大事なこと」と分かっていることは、安心材料の一つですので、実際のやりとりでそれを実現できるようにしていきたいです。また、自分や友達を大切にするための言葉や行動は、日常生活のようなリアルな場面だけでなく、スマホやタブレットを介したデジタルな場面でもその姿勢が問われることになります。特にデジタル空間でのやりとりについては、実際どのような言葉や行動が存在し、そのコミュニケーションの仕方に問題はないかを大人側も注視しておくことが必要だと考えています。

自己決定の場の提供

質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、11・12・13・14



「自己決定の場の提供」とは、自ら考え、選択し、決定し、行動する（発表・制作など）経験が得られる機会を意図的に設定することです。例えば、学校での活動や家庭でのルールについて、子どもたちが意見を出し合い、その意見を尊重して決定する場を設けることがあります。これにより、子どもたちは自分の選択に責任を持ち、自信を持って行動できるようになります。

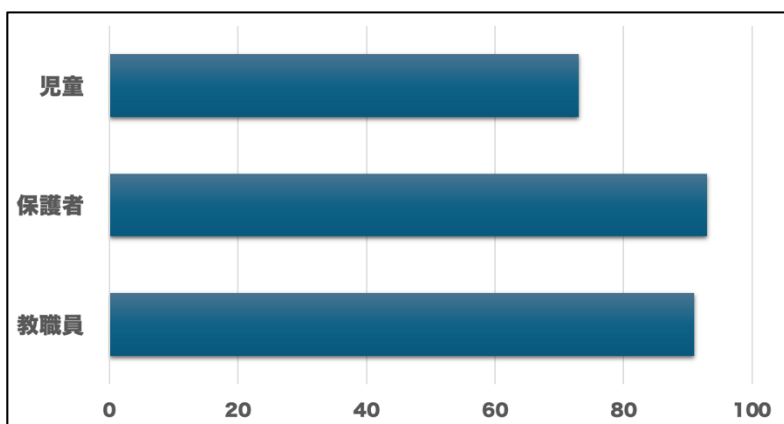
また、保護者としては、子どもたちが自分で決めることをサポートし、必要に応じてアドバイスを与えることが大切です。これにより、子どもたちは自立心を育み、将来の様々な場面で自分の力で問題を解決できるようになります。

児童への質問11「じゅぎょうちゅうは、じぶんから すすんで、がくしゅうしている」や、質問12「かていがくしゅうに じぶんから すすんで、とりくんでいる」では、学校での学習や家庭学習についての主体的な態度について聞きました。どちらも肯定的な回答は、前期より微減し、80%に満たない結果となりました。児童の中では、「自分からしているというよりは、先生や家の人に言われたからしている」という意識がある児童もいるようです。したがって、自主的に取り組む楽しさを感じられることや自主的に取り組むための具体的な方法の指導については、学校でも来年度への課題として考えていきたいと思います。子どもが自分の課題に自主的に取り組むようになるためには、関心、意欲を喚起することや、子どもが学習の計画を立て、実施の見通しをもちながら課題を進めることが必要になります。学年に応じて、ある程度子どもに任せる部分も出てくるかと思えます。どちらにしても、言われたことだけをするのではなく、自分で考えたり、計画したり、ふりかえったりしながら取り組むことができるようにしていきたいと考えています。

ご家庭での学習に対するモチベーションの高め方は、お子様によって変わると思えます。共通していえることは環境面でしょうか。可能な範囲で集中できる環境を整え、学習に取り組みやすい状況を作っていただければと思います。

このセクションで、前期に引き続いて特に低かったのは、児童への質問13「がっこうや いえで ほんを よくよんでいる」です。肯定的な回答が60%をきりました。この質問に関しては、保護者の方や教職員の回答も他の項目と比べて低くなっています。家庭でも学校でも、本を読む時間のみを確保するのはとても難しいのかもしれませんが。学校では、朝学習や課題が終わった場合などに読書の時間を取ったり、図書館の時間をとったり、クラスの係の子どもが本を代表で借りに行ったりしていますが、「読みたい本を自ら選び、進んで読む」という姿勢には至っていない児童もまだ多くいると感じます。学校では、1学期から月に1度のペースでPTAの有志の方に、朝の読み聞かせをしていただいています。本を読んでいたっている子どもたちの様子を見るととても落ち着いていて目をキラキラさせている子が多いです。本を読む体験として、貴重な時間をつくっていただいていることに感謝しています。来年度もぜひお願いしたいと考えております。

安全・安心な風土の醸成



質問番号

【児童】【保護者】【教職員】

共通して、15

「安全・安心な風土の醸成」とは、お互いの個性や多様性を認め合ったり、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくったりすることです。特に、小学校では、学級や学年で活動することがメインになりますので、その中でのルールや「やくそく」が子どもたちの中で約束されていて、どの子も安心して学習できることが大切です。

質問15では、「みんながきもちよくすごせるように がっこうや いえでのるうるを まもろうとしている」か問いました。90%弱の児童が肯定的な回答をしている一方で、そうではないと感じる児童も約10%いました。学校は集団生活の場ですので、お互いが気持ちのよい「ルール」や「やくそく」を考えることが大切かと思います。その際、教室には、様々な価値観をもった子どもや様々な背景をもった子どもがいることを考えることが必要になりますが、このことは子どもたちには見えにくいことなのかもしれません。したがって、教室には様々な価値観をもった子どもがいるということ、お互いの考えを尊重しつつ、最適な「ルール」や「やくそく」を考えていくことを子どもたちと一緒に考えていきたいと思っています。同時に、「ルール」の意図や重要性を十分に理解したり、「ルール」がなぜ必要なのかについての理解を深めたりできるように子どもたちと一緒に考えていったり、指導していったりしていきたいと思っています。

それ以外の項目について

質問16と質問17は、学校教育目標の副題の一つとなっている「自らを律する力」に関する項目です。主にGIGA端末の活用についてのことになっています。学校での取り組みが進んでいき、自律的な使い方が求められていきます。家庭学習での活用がうまくできるようになれば、GIGA端末も効果的に使えるようになると思いますが、時間を超えて使っていたり、不適切な使い方をしてしまっていたりするケースもあるようです。使い方に関しては、学校でも家庭でも同じ方向で話ができれば子どもたちにとってより良いものとなっていくと思います。なお、お困りの際は、学校までご相談ください。

今回のアンケート結果だけではなく、学校生活全体においても同様のことがあると思います。子どもたち一人ひとりが自らを律する力を高めていくためにも、継続的な指導はもちろん、その都度考え、振り返りながら物事に取り組んでいくことを通して、子どもたちには、大きく成長してほしいと思います。